

# 府立病院経営目標概要

<b>1 趣 旨</b>
「新公立病院改革ガイドライン」の主旨を踏まえ、良質な医療サービス提供のために経営基盤を確立し、さらに洛南病院が果たすべき役割を推進するための方向性の整理（中期的な経営目標。国の新改革プランにも位置付け。）。
<b>2 計画期間</b>
令和5年度から9年度までの5年間
<b>3 これまでの取組と課題</b>
【これまでの取組】 <ul style="list-style-type: none"><li>○ 医業収益は、入院診療単価の増加したものの新型コロナウイルス感染症の影響により新規患者数の減少に伴い減少した結果、医業費用は、退職者の増減により変動はあるものの、医業収支は、医業収益の減少により減少傾向</li><li>○ 専門医療への取組（思春期専門外来、若年性認知症専門外来、重症うつ病対策として磁気刺激治療、薬物依存症回復プログラムの導入等）</li><li>○ 精神科医療ニーズの多様化を踏まえ、洛南病院の診療機能と密接に連携した専門性の高い相談対応や地域医療機関等を支援する「京都府こころのケアセンター」を平成28年8月に開設</li></ul> 【課 題】 <ul style="list-style-type: none"><li>○ 精神科医療における疾病構造の変化、精神科医療ニーズの多様化</li><li>○ 地域生活を支える医療の需要増大、精神科救急医療体制の充実による安心の確保等</li><li>○ 更なる収支の改善（経常収支の黒字化）</li></ul>
<b>4 洛南病院の今後果たすべき役割</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 質の高い精神科救急医療の提供</li><li>○ 多様化する精神科医療ニーズに対応するための専門医療の提供</li><li>○ 地域連携による地域生活と社会復帰の支援</li><li>○ 臨床教育・研究による医療人材の育成</li><li>○ 新興感染症拡大時等に備えた平時からの取組</li></ul>
<b>5 今後の取組に向けた基本的な考え方</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 良質な医療を継続的・効率的に提供するため、経営の更なる健全化</li><li>○ 高度医療や政策医療を効果的、安定的に提供するため、府民の期待に応える病院づくりや、安定した医師確保のための魅力ある環境づくりを推進</li></ul>
<b>6 主な取組項目</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 【病棟再編】 現行の病院施設は、建物の老朽化が著しく、現在の診療状況からは非効率な病棟構成になっているため、適切な療養環境の提供がハード・ソフトの両面で限界に達していることから、令和4年度から令和13年度にかけて、病院の建替工事を行い、併せて病棟の再編とリハビリテーション機能の強化、地域連携機能の向上など健全な病院運営等が図れるよう検討</li><li>○ 【収益確保】 救急患者の積極的な受入れ、救急病棟患者への短期集中治療の実施、専門医療の体制強化、地域連携強化、未収金の対策強化、こころのケアセンターとの連携 等</li><li>○ 【経費削減】 外部委託や調達方法の見直し、後発医薬品の採用拡大、院外処方等の推進 等</li><li>○ 【人材確保】 新専門医制度に係る専門研修の実施、専攻医の処遇改善、医師事務作業補助者の配置、看護師採用試験の早期実施、時間外労働時間の把握による適正な勤務環境の維持 等</li></ul>
<b>7 再編・ネットワーク化の考え方</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 府南部精神科救急医療システムの基幹病院として、輪番病院と役割分担とネットワークの強化</li><li>○ こころのケアセンターの取組を中心に、4つの専門医療分野（児童・思春期、薬物依存症、若年性認知症、重症うつ病）に係る連絡調整会議等を設置</li></ul> ※洛南病院が位置している山城北医療圏には洛南病院以外に公立病院がなく、また、精神科単科の病院であり、圏内の他の病院との再編は適さない状況
<b>8 経営形態について</b>
当面、現行の経営形態（地方公営企業法の一部適用）で病院運営を行うこととし、将来的には、他の都道府県立精神科病院の運営状況等を参考にするとともに、今後、洛南病院の再編整備と併せて府内唯一の公立精神病院としての役割、経営形態のあり方等を検討